

# 事務事業シート(実施計画事前基礎シート)

(H.21)No.	(H.22)No.	7013-2
-----------	-----------	--------

事務事業名	病院事業会計(看護専門学校)		
担当部局名	担当室名	室長名	連絡先
市立病院事務局	看護専門学校(教務庶務室)	長谷川 美恵子	64-7700
新・継	事業期間	根拠法令等	
	平成 6年度 ~ 平成 年度		

事業区分 (複数選択可)	ソフト施策事業
	扶助費
	補助金交付金
	投資事業
	施設等維持管理
	内部管理事務
	特別及び企業会計、組合

## 1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	4	心豊かな教育と文化に包まれた、ゆとりある暮らし
	基本政策	1	生きる力をはぐむ教育の充実
	施策	1	学校教育
	小施策	4	高等教育
重点施策コード			

## 2. 予算区分

会計区分	事業コード
病院事業会計	(中事業名)
款	
項	(小事業名)
目	

## 3. 事務事業の概要

事業概要
<p>自然に囲まれた素晴らしい環境の下で感性豊かな人間性を養うことを通して、看護の対象である人間を幅広く理解し、また対象の健康上の問題を解決するために必要な看護に対する知識、技術、態度を身につけることにより、現代の保健医療の進展、変化に対応できる看護の実践者の育成をめざし、また、人々の生活基盤である地域を理解し、個人個人の生活特性を生かした看護展開ができる能力を開発するために、在宅ケアの看護技術の修得および継続看護に重点をおいた教育を実施しています。</p>

めざす効果(事業目的)
<p>感性豊かな人間性と現代医療に対応できる知識・技術・態度を身につけた地域社会に貢献できる看護師の育成</p>

## 4. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	平成21年度 (実績・決算見込)	平成22年度 (計画・6月補正後予算)	現在の実施手法(複数選択可)		
	[事業内容(事業量)・事業費]	[事業内容(事業量)・事業費]	市が直接実施	業務委託(全部・一部)により実施	指定管理
主な事業の実績・計画	平成21年度入学者数22名 平成22年3月卒業生数14名 (うち市内就職者数7名) 国家試験合格率(看護師100%)	平成22年度入学者数23名	補助金・交付金	その他 ( )	
			平成23年度(計画)	平成24年度(計画)	平成25年度(計画)
			定員20名	定員20名	定員20名
<b>事業費 (千円)</b>	<b>94,273</b>	<b>87,504</b>	<b>87,504</b>	<b>87,504</b>	<b>87,504</b>
の 財 源 内 訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他( )	18,233	21,864	21,864	21,864
一般財源	142,781	140,959	140,959	140,959	140,959
人工数	職員(人)	7	7	7	7
	臨時職員等(人)	1	3	3	3
<b>人件費 (千円)</b>	<b>66,741</b>	<b>75,319</b>	<b>75,319</b>	<b>75,319</b>	<b>75,319</b>
<b>総費用 + (千円)</b>	<b>161,014</b>	<b>162,823</b>	<b>162,823</b>	<b>162,823</b>	<b>162,823</b>

人件費 は、人工数に便宜上、1人当たり年間平均人件費(市一般会計全体、共済費を含む額)を乗じた数値を記載しています。  
 平成21年度の( )内の数値は、20年度からの繰越事業費で、外数で記載しています。  
 特別会計、企業会計及び組合会計の、財源内訳の一般財源欄は、一般会計繰入金または市分担金を記載しています。  
 平成23年度以降の計画(内容及び事業費)については、予定であり確定したものではありません。

## 5. 主な事業指標と成果

事業指標名		単位	H.20 (現状値)	H.21	H.22	H.23	H.24
活動指標	目標	人	-	-	-	20	20
	実績		25	22	23		
活動指標	目標	人	-	-	10	10	10
	実績		4(4)	7(6)			
	目標	人					
	実績						
考察及び今後の対応方針	地域に貢献できる優秀な学生の確保に努める						

## 6. 事業を取り巻く環境

事業環境の今後の変化 (対象者やニーズ、法令・制度の改正等)	市民・事業関係者・団体等からのこれまでの主な意見
近隣地域での4年制大学の看護科新設。少子化及び4年制志向の強まりによる受験者の減少。	

## 7. 担当室による点検 [事務事業をより良く(最適化)するために]

(1) 協働の取組(「新しい公」の推進)	
協働等は実践していますか 実践していない(適当ではない)( へ) ▼	協働等の主な相手先について ▼
協働等の主な形態について(現在および今後の可能性) ▼	協働等の今後の取組について 市が直接実施 ▼
	備考欄
(2) (現在の事業費の範囲で) 効果を高める方法や工夫等を、さらに図ることができますか 現在の手法が妥当である。 ▼	
(3) 事業効果を一層高めるため、他の事務事業との連携や統合を図ることができますか 現在の手法が妥当であり、連携や統合は困難である ▼	
(4) 新たな財源確保や事業に係る負担の見直し等を、さらに図ることができますか 新たな財源確保、事業に係る負担の見直しは困難である ▼	
(5) その他、有効性や効率性を高めるための工夫や取組を図ることができますか 困難である ▼	

## 8. 今後の事務事業の方向(点検を踏まえた担当室による内部評価)

総合評価(事業の展開方法)	特記事項
継続(現行どおり)( 理由 (2)へ) ▼	
(1) 短期的な(平成22年度)事務事業の工夫・改善など	
(2) 継続(現行どおり)の理由、中長期的な(平成23年度以降)事務事業の工夫・改善など これまでに民営化を視野に入れた経営形態の見直しを検討していたが、「公設民営方式」は現行法上不可能であるため、現在は、病院の運営形態を見極めながら、現状の運営を継続するのが最良である。	